

式 辞

静岡県立大学、短期大学部、そして大学院に入学された諸君、入学おめでとうございます。

また、ご家族の皆様には、お祝いを申しあげるとともに、ここまでお育てくださったことに対して、ご苦労さまでしたと感謝申し上げます。

本日は、静岡県知事川勝平太様はじめ、県議会、奨学金授与団体、県内大学、そして同窓会から、多数のご来賓にお出でいただいております。お忙しい折柄ご臨席賜った来賓の皆様とともに、全教職員を代表して、諸君の入学を心よりお祝い申し上げます。

本学は 1987 年に、静岡薬科大学、静岡女子大学、静岡女子短期大学の 3 校を統合して設立されました。今年、開学 30 周年を迎えました。これからはじまる、新しい 30 年に向けてスタートしたところです。

この節目の年に入学された諸君には、あらためて考えていただきたいことがあります。30 年前にはなにがあったでしょうか。1987 年は、前年末に始まったバブル景気が本格化した年です。バブル経済は 2001 年に崩壊し、「失われた 20 年」と呼ばれる時代が来ます。

国際政治では 1989 年のベルリンの壁崩壊、1991 年にはソ連崩壊が相次いで起き、東西冷戦が終結しました。それにより一気に進んだ経済のグローバル化、新興国の台頭は、自由貿易のもとで、経済成長、格差の解消を期待させました。しかしこうした新しい歴史の展開の中で、中東を中心に新しいタイプの紛争が多発しています。イギリスは、ヨーロッパの恒久的な平和と協調を目指した EU から、離脱することを決めました。アメリカは新大統領のもとで、反グローバリズム、自国中心の保護主義に向かっています。期待に反して、グローバル化は、先進国のなかでも所得格差を拡大させています。日本では人口減少が大きな課題ですが、世界人口はまだ増加を続けて、2100 年には 112 億人になると予測されています。食料、資源に加えて、地球温暖化に象徴される地球環境の悪化も懸念されます。

30 年後の日本、そして世界はどのようになってしまうのでしょうか。確実なことがあります。30 年後に、いま 18 歳の新生は 48 歳になるということです。社会の担い手として働き盛りです。30 歳で子供を持つとすれば、ちょうど皆さんと同年齢の子供がいることになります。30 年先を憂いているわけにはいきません。30 年後の世界がどうなるか、というよりも、みなさん自身はどうしたい

か、を考えてもらいたいのです。

「未来を予測する最善の方法は、それを発明することだ」という言葉があります。アラン・ケイというアメリカの計算機学者のことばです。また、もうひとりのアラン、フランスの哲学者で『幸福論』を書いた人ですが、「悲観は気分属し、楽観は意志に属す」という言葉を書き残しています。いずれにも共通するのは、目の前の困難にひるんで、憂いているだけでは問題は解決しない。将来はこうしようではないかと思ひ描き、それに向かって行動することが、困難を乗り越える最善の方法だ、とっているのです。みなさんには、入学を機に、ぜひ 30 年後の自分と、30 年後の社会についてたくましく想像し、自分なりの目標を描いていただきたい。

県立大学が目指していることについてお話しします。本学は、理念として 5 項目を挙げています。その一つに、「地域社会と協働する、広く社会に開かれた大学」を目指すとあります。私はこれを「地域をつくる、未来をつくる」という言葉に置き換え、モットーとしました。地方消滅がささやかれる今こそ、県立大学が地域の核となって、アイデアを提供し、次代を担う若者を育てていかなければならない責任を負っていると考えるからです。

本学は平成 26 年度から文部科学省の補助金による「地（知）の拠点事業」、いわゆる COC (Center of Community) として『ふじのくに「からだ・こころ・地域」の健康を担う人材育成拠点』に取り組んでいます。全学共通教育にも静岡を知るところを目的に、20 科目にも及ぶ「しずおか学」や地域づくりに関する科目を、選択必修科目として開講しているのも、地域の未来を担う人材を育成しようという、本学のミッションの実践にほかなりません。現在では、学部の枠を越えて、異なる学部の学生のチームが地域介護などの地域課題解決への提案を行ったり、ゼミ、サークル単位で観光資源開発や地域特産物の生産に関する研究を行ったりしています。

しかしそういったからといって、私は大学を若者の流出を食い止めるダムとしてだけ考えているわけではありません。もっと多くの留学生を受け入れること、本学からも諸外国に学生を送り出すことを推進します。教育と研究を通じて地域への貢献を重視する本学は、国際交流にも力を入れます。グローバルに活躍できる人材を輩出することこそ、地域を強くするものだと考えています。今年 1 月、「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」が実施する「トビタテ！留学 JAPAN (日本代表プログラム「地域人材コース」)」が文部科学省に採択されました。県内学生の最大 2 年間の留学を支援する制度です。皆さんもどんどんチャレンジしてください。海外との交流によって、自分自身と、地域を見直すきっかけになることでしょう。

いま世界には、ICT、I o T、AI、ロボットなどの言葉が氾濫しています。情報技術を中心に、社会は大きく変わろうとしています。Industry 4.0 という言葉も生まれました。新しい産業革命だということです。それによって、これまで存在した職業が、なくなる可能性も指摘されています。

私は人口の研究をしてきましたが、人口増加が止まる時代は、実は新しい文明が勃興する、重要な転換期だ、ということを見出しました。縄文時代後半、平安から鎌倉時代、そして江戸後期がそうでした。今、日本を含む先進国は、そのような歴史的な局面に入ったのです。30 年先には、どんな時代、どんな社会が待っているのでしょうか。いや、どんな社会をみなさんは創ろうとしているのでしょうか。

幼稚園から大学まで、社会の変化にあわせて、日本の教育は大きく変わりつつあります。知識や技術を習得することだけが学習ではない。どうすれば新しい知識や技術を生み出すことができるか、主体的に学ぶことが求められています。大学は皆さんの自立を支えるために、いろいろな形で手を差し伸べ、支援します。皆さんにとって、卒業後も頼りになる生涯の母校となるように努めます。皆さんも学部の枠を越えて、教職員と一体になって、知の共同体の一員として大学生活を楽しんでいただきたい。そして「地域をつくる、未来をつくる」主人公として、大いに研鑽を図っていただきたい。健闘をお祈りします。

静岡県立大学
静岡県立大学短期大学部
学長 鬼頭 宏